

〔大鏡五太政大臣伊尹〕さて家にかへりて、朝成藤原このぞうながくたえん、もしおのこも、をんなごもありとも、はかばかしくてはあらせじ、あはれといふ人もあらば、そ原作かれをもうらみんなどちかひて、うせ給ひにければ、だいくの御あくれうとこそはなりたまひたれ、さればましてこの殿伊尹養子藤原行成ちかうおはしませば、いとおそろし、殿藤原道長の御夢に、南殿の後のとのもと、かならず人のまいるに、たつところよな、そこに人のたちたるをたれぞと見れば、かほは戸のかみにかくれたれば、よくも見えず、あやしうてたそくとあまたたびとはれて、あさなりに侍りといらふるに、夢のうちにもいとおそろしけれど、ねんじて、などかくてはたち給ふたるととひ給ければ、頭辨藤原行成のまいらるゝを、まち侍るなりといふと見給ひて、おどろきてけふは大事ある日なればとくまいるらん、ふびなるわざかなとて、夢に見え給ひつる事あるを、けふは御やまひ申などとして、物いみかたくして、なにかまいりたまふ、こまかにはみづからとかきて、いそぎたてまつり給へとちかひて、いとくまいり給ひにけり、まもりのこはくやおはしけん、れいのやうにはあらで、きたの陣よりふちつば後涼殿のはざまよりとをりて、殿上にまいり給へるに、こはいかに御せうそくたてまつりつるは、御らんせざりけるか、かゝる夢をなん見侍りつる、とくいでさせ給ひねと、聞えさせ給ひければ、てをはたとうちて、いかにぞと、こまかにもとひまさせ給はず、またふたつものものたまはで出給ひにけり、

〔江談抄詩五事〕維時中納言夢才學事

維時中納言日記中書云、菅家夢中令告云、汝才學漸勝朝綱之由所託云々、雖然於文章非敵歟、

夢爲憲文章事

橋孝親父名可求可爲師匠之者、祈請其先祖建學館院之者、名可夢中告云、文章者可習爲憲者、爲憲

聞之稱雄云々、